

TAMAKI

挑戦の先には
成長がある

鳥取県議会議員

玉木 ゆういち

活動報告書

議会録画放送の
リンクです。

令和6年6月～令和7年2月



計4回分の
議会記録です。

YUICHI

挑戦の先には成長がある

“光陰矢の如し”と言いますが当選させていただいてからあっという間に1年が経ちました。

支えてくださっている皆様のおかげで失敗や挫折したとき、また不安になりそうな時でも“よっしゃ頑張ろう!”と新しい一歩を踏み出すことができます。

皆様には改めて、心よりの感謝と御礼を申し上げます。

さて、鳥取県は人口減少と少子高齢化が進み、県民所得や県税収も最下位レベルです。若者たちは、夢と希望を鳥取の外へ見出しておりその結果、人口流出も続いています。

このような現状を作ってきた今までの政治と社会のあり方を少しでも改善し、次世代により良い鳥取を繋げていけるよう全力で県政の課題に立ち向かいます。

そして古い政治から未来を見据えた新しい政治へと改革していく事に全力を尽くします。

混沌とした世の中ですが、僕たちが責任世代として、明るく元気に頑張る姿を次の世代に示すことで、若者や子どもたちも夢と希望を胸に輝くと信じています。

どんな時も“挑戦の先には成長がある”そう心に刻み駆け抜けて参ります。

なにぶん若輩者ですが、末長くご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

鳥取県議会議員

玉木 裕一

玉木ゆういち連絡先

TEL:0857-35-0417 FAX:0857-77-3951

〒680-0803 鳥取市田園町4丁目375番地
MAIL:y.tamaki@yuichitamaki.jp

やる気!元気!たまき!
皆さまの
地域づくりのための
ご相談をお待ちして
おります。

プロフィール

鳥取県議会議員

たまき ゆういち

玉木 裕一

47歳

5人の父親

鳥取マラソン2回完走

鳥取市立津ノ井小学校 卒業

鳥取市立桜ヶ丘中学校 卒業

鳥取県立鳥取商業高等学校 卒業

日本維新の会維新政治塾第6期 卒業

ホテルニューオータニ鳥取 勤務

八幡不動産グループ 代表

鳥取給食センター 代表

地域の役

前城北保育園保護者 会長

前すなやま児童クラブ保護者 会長

前鳥取市立城北小学校PTA 会長

前鳥取市PTA連合会 監事

前青翔開智中学校高等学校FTA 副会長

鳥取商業高等学校同窓会 副会長

鳥取北ロータリークラブ 会員

鳥取経済同友会 会員

鳥取日越友好協会 理事

因幡石浦会 西日本支部長

おやじ自転車部 主催

鳥取県フードブース振興協会顧問

鳥取ダンス協会顧問



Q
玉木ゆういち



人口減少と持続可能な県政について

知事の著書や「植福」の理念に触れつつ、人口減・流出が加速する中で、将来世代が希望を持てる鳥取を実現するための行財政運営や税収確保策を問う。経済成長・企業誘致・事業見直し・DX などによる財源捻出を提案。

A
答弁[知事]

「平和の道具」として県政に取り組んできたと述べ、人口減や都市集中の課題に対し、行財政改革・社会減 / 自然減対策・地域資源活用による持続可能な県づくりを進める考えを表明。スタートアップ支援やデジタル技術活用も推進中



Q
玉木ゆういち



R8年 令和8年 Yahooニュースに載りました!

学校給食の無償化と教育行政の課題

子育て世代の立場から給食費無償化を強く提言。現場視察を踏まえ、物価高による給食の質の低下と市町村格差を問題視し、まずは牛乳無償化(年間約5億円)から県が主導してはどうかと具体的提案。



A
答弁[教育長]

給食の意義や現場の努力に敬意を示しつつ、現時点での県主導の無償化は困難と回答。国主導による全国一律の制度整備が必要との立場で、引き続き国への要望を強める方針を示した。

A
答弁[知事]

給食費無償化は本来国が担うべきとし、市町村や現行制度の実情にも触れながら、安易な判断はできないと答弁。一方で、市町村との協議を進め、次年度予算編成に向けた検討を行う意向を示す。



総括

玉木議員は「シン・子育て王国とっとり」の理念実現に向け、将来世代への投資や地域格差是正のため、財源確保と政策推進の必要性を一貫して主張。

知事・教育長ともにその問題意識を共有しつつも、制度上の制約や財源課題に言及し、慎重に検討していく構えを見せた。



会派要望



① 給食費無償化の実現を強く要望

【県の回答】 国が「こども未来戦略方針」に基づき全国一律の学校給食費無償化制度を検討中であることから、県としては引き続き国に対し財政措置を要望する方針。

② 投票率向上に向けた「鳥取モデル」構築のための抜本的予算を要望

選挙のたびに低下する投票率を深刻に受け止め、主権者教育の強化や選挙制度改革(インターネット投票、被選挙権年齢引下げ等)を進めるよう提言

【県の回答】 小中学生向け教材作成など主権者教育を強化。さらに投票所の減少防止に向けオンライン立会の導入も開始。新規事業の遂行と検証の後、今後の対策を検討。

会派要望とは…議会前に知事に直接会って要望書を提出すること。



玉木ゆういち

給食費の無償化・教育の無償化 11月も含め3度追及

6月議会に引き続き、物価高騰や自治体間の格差の拡大に危機感を示し、子どもたちの命を守る給食の無償化を改めて提案。牛乳代の無償化や段階的導入など、鳥取県独自での一歩前進を求めた。



答弁【知事】

国主導による全国一律の制度整備」が基本との立場を崩さずつつも、市町村との意見交換を進める姿勢を示し、今後の検討課題とした。



答弁【教育長】

給食の役割の重要性や現場職員の努力に敬意を表しつつ、国への要望強化にとどめ、県独自実施への踏み込みはなかった。



玉木ゆういち

公共施設マネジメントと民間活用・共同整備の推進



昭和期建設の施設が80年使用を前提とした長寿命化計画に移行している現状に対し、人口減少を踏まえた総量縮減と民間譲渡・売却の積極的推進を提案。特に学校施設の活用と教育の質を両立した戦略的再編を教育長に求めた。



答弁【知事】

民間活用やPPP/PFIの実績(例:米子市との合同庁舎)を紹介し、今後も促進すると答弁。



玉木ゆういち

県と市町村の縦割り体制を越えた「共同整備推進組織の設置」を提案。全県的視点で施設整備の効率化と住民サービスの最大化を訴えた。



答弁【知事】

現状でも市町村と協議を進めていると説明したが、議員は「**県と市町村の温度差**」を感じると再度強調し、県主導の枠組み強化を**重ねて要望した**。

総括

玉木議員は、県の財政健全化の実績に敬意を示しつつも、ひねり出した財源を「次世代への徹底投資」に振り向ける政治判断を促した。引き続き国への要望と並行して県としても前向きな行動を取るよう求め、「久松十訓」の理念に基づいた住民目線の政治を訴え、締めくくった。



会派要望



①南海トラフ巨大地震への対応

日向灘での地震を受け、徳島県など被災可能性の高い地域への支援体制強化を要望。

【県の回答】民間との応援協定を243事業者と締結済。今後も協定推進と共に受入体制や災害医療体制の強化を進める方針。

②学校給食費無償化に向けた取組強化、重ねて提言

③PFAS(有機フッ素化合物)汚染問題への対応

PFASによる健康不安への対処として、県内水道水検査の実施と結果公表、汚染状況調査の徹底を要望。

【県の回答】未実施市町への検査促進と公表を働きかけ。主要水域では調査継続中で、必要に応じ地点変更を検討。飲料水製造業者は独自に水質検査を実施。

④大阪・関西万博の修学旅行等での活用促進

未来技術に触れられる万博は探求学習の好機であり、参加推奨と費用支援を求める。

【県の対応】教育委員会が既に情報提供中。今後も継続し、支援の在り方を検討。



鳥取版異次元の少子化対策について

Q
玉木ゆういち



人口減少問題に対する危機感とともに、鳥取県が全国に先駆けて取り組む姿勢を評価。特に11月に開催された人口戦略フォーラムを例に挙げ、「産官学金労言」が一体となった社会改革と、若者・女性の声に寄り添った政策展開の必要性を訴えた。人口減少の実態を県内外のデータで示し、鳥取県の「消滅可能性自治体」の現状にも言及。知事に対しては、財源のめり張りをつけてインパクトのある政策を打ち出すべきと主張した。

A
答弁【知事】

鳥取から日本を変えよとの覚悟を持ち、政策の再構築と財源の重点配分を進めると答弁。異次元の対策として、女性活躍の推進や子育て環境の整備に重点を置くと述べた。



女性活躍政策の強化について

Q
玉木ゆういち



特に「女性応援課」「産業人材課」「子育て王国課」の3部署について、実績と課題を具体的に示しながら、人員・予算の抜本的強化を要望。若者・女性の当事者を政策立案に巻き込む体制強化の必要性を訴えた。

A
答弁【知事】

いずれの部署も県の未来に直結する重要部門と位置付け、前向きに人員体制や事業拡充を検討する意向を表明。

地域の声を反映した横断歩道・信号機の設置について

Q
玉木ゆういち

信号機・横断歩道の新設要望が増加しているにも関わらず、整備が進んでいない現状を指摘。特に城北公民館前の国道53号における具体的事例を紹介し、2,500名超の署名がある要望について警察本部長に見解を求めた。



A
答弁【警察本部長】

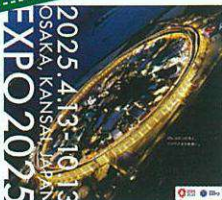
物理的・基準上の制約を認めつつも、地域の声に真摯に向き合い今後も検討を継続すると答弁。玉木議員は、地域の安全のため、より柔軟な対応を求めた。

総括

11定例会では、玉木議員から現場の声とデータに基づいた具体的かつ実効性ある提言がなされ、知事および執行部もそれに前向きに応じる姿勢を示した。特に、人口減少対策、女性・若者支援、教育環境の充実など多岐にわたる課題に一貫して取り組む決意が示された意義深い質疑となった。

消滅の可能性がある鳥取県内の自治体、岩美、若桜、智頭、八頭、大山、日南、日野、江府の8町が該当したことをうけ危機感を示す玉木議員

会派要望



①給食費補助（物価高騰による質低下防止）

物価高騰による給食の質の低下を懸念し、市町村の財政では賅いきれない部分に対する県の補助を要望。

【県の回答】県は、全国一律の仕組みづくりを国に要望しており、引き続き国に働きかけていく方針。

②出会い・結婚支援事業

職員体制の強化による出会い・結婚支援の推進を要望。

【県の回答】タスクフォース等の提案を踏まえた事業の強化と、組織体制の検討を進める意向。

③大阪・関西万博と観光誘客

万博による観光促進の好機として、観光客への情報発信や支援体制の強化を要望。

【県の回答】特設サイトやSNSを活用した広報活動やキャンペーンを展開中。補正予算に関連事業を計上。

④横断歩道の新設

【県の回答】県警はバリアフリー対応施設の整備を進めており、交通規制基準に基づく対応を継続予定。

⑤前立腺がん検診の対策型検診への組入れ

前立腺がんの罹患率が高いため、対策型検診への昇格を国に要望することを提案。

【県の対応】科学的根拠が示された段階で国への要望を検討すると回答。





Q

玉木ゆういち



令和の改新と人口減少対策について

平井知事が掲げる「令和の改新」の中心は人口減少対策であるとの認識を示し、県内GDPや県民所得の低迷を背景に、インパクトある経済政策や企業誘致などの大転換を求めた。また、予算規模が過去最大である一方、固定費や人件費が主因で、少子化関連予算が小粒に見える指摘。

A

答弁【知事】

「開物成務」の精神で令和の改新を推進する意義を強調。健全財政を守りながらも、PFIや収支相償う手法を用いた積極投資も進めていると説明。また、TSMCや若者スタートアップ、宇宙ローバー大会など将来を見据えたシーズも紹介し、夢と現実の両立を強調。



Q

玉木ゆういち

教育の無償化と高校の共存共栄について

実現!

教育の無償化により、公私間や県内外との競争が激化することを踏まえ、公立高校の統廃合やファシリティマネジメント、教育内容・施設整備の強化の必要性を訴えた。

A

答弁【知事】

鳥取県は既に全国トップレベルの私学助成を行っており、授業料は39万円程度と比較的安価。公私の格差は縮小傾向にあり、今後は特色教育などを通じて切磋琢磨を進める意向を示した。

A

答弁【教育長】

教育の質向上とともに、専門高校の施設整備やバリアフリー化、ICT環境などの重要性を指摘。国の予算支援も活用しながら、整備の加速を検討すると述べた。



追及質問

専門高校の施設整備について

鳥取工業高校の実地視察を踏まえ、専門教室や実習棟の寒暖問題を報告。エアコン設置が令和12年度以降となっている現状を問題視し、優先度の見直しを提案。

Q

玉木ゆういち

婚姻数の減少とアンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)の解消について

婚姻数の激減は若者の価値観の変化と、過去の政策が響いていないことにあると指摘。新設の男女協働未来創造本部を活用し、若者に響く新たな政策を求めた。

A

答弁【知事】

社会通念の変化と従来政策の限界を認め、地域や職場での意見収集と政策形成を進める「話彩や」構想を紹介。アプリ連携や県外との婚活イベントの成功例も挙げ、実効性ある対策を進める意向を示した。



Q

玉木ゆういち

鳥取版異次元の少子化対策としての出産祝い金1,000万円提案

「1人あたり1,000万円の出産祝い金」を提案。財源は行財政改革や既存予算5%のスリム化などで確保可能と主張。人口減少対策に対する覚悟とメッセージ性が重要と訴えた。

A

答弁【知事】

出産祝い金1,000万円構想に対して、提案の意図は理解しつつも、地方自治体の財政規模からして困難とし、既存の社会サービス型支援(医療・保育・教育など)を軸にする方が実効的と主張。具体的に「江府町では最大50万円の出産祝金」と説明。今後は市町村と連携しつつ「シン・子育て王国」として、出産祝金や婚活支援など複合的な支援パッケージを強化する方針を示した。



総括

鳥取県の将来を見据えた本質的かつ挑戦的な提案が並び、平井知事・教育長との間で本音の政策議論が展開された。

特に出産1,000万円構想は、その実現性に関しては議論の余地があるものの、「異次元の少子化対策」の象徴として政策の優先順位を問い直すインパクトを与えた。

また、婚姻数減少の社会的背景や専門高校の施設整備遅れの指摘など、現場と未来をつなぐ質問が際立ち、今後の鳥取県の政策形成に大きな示唆をもたらした。

会派要望



①出会い・結婚支援事業「えんトリー」の拡充について

- ・登録料の無料化を要望し、特に女性の無料化も検討。
- ・登録料依存から脱却し、安定した国費・県費での運営を求める。
- ・倉吉センターの営業日拡大と体制強化を要望。
- ・ボランティア仲人（縁ナビ）への報酬充実とグループ化支援を求める。

【県の対応】 令和7年度予算案にて、会費無償化、体制見直し、縁ナビ強化策を検討中。

②難病支援体制の強化について

- ・鳥取相談センターの相談員が1名体制であるため、増員を要望。
- ・難病患者の増加に伴い体制整備の必要性を指摘。

・災害時の避難体制強化を市町村等と連携して推進するよう要望。

【県の対応】 センター体制見直しや避難対応の改善を関係機関と連携し検討中。

③防犯環境整備の促進について

- ・高齢者世帯対象の防犯機器補助制度を全世帯対象に拡充すべきと要望。
- ・店舗・事業所への防犯対策の推進・啓発も求める。

【県の対応】 高齢者世帯への支援継続予定。店舗・事業所含めた啓発・カメラ設置を促進。

実現!

実現!

政治資金に関する透明性確保を求める意見書に関する賛成討論 要約

玉木裕一議員は、政治資金の透明性が民主主義の信頼回復に不可欠とし、現行の政治資金規正法には改善点がある一方で、抜け穴も残っていると指摘。

鳥取県議会の高い透明性を国政にも求めるべきと訴え、他自治体の動きや自民党内の前向きな声にも触れつつ、党派を超えて意見書を提出することが信頼回復の第一歩であると主張しました。

熱く
討論!

賛成!

賛成11:23反対

議員報酬引き上げに反対する討論 要約 賛成29:4反対



玉木議員は、現在の政治不信と物価高に苦しむ県民感情を踏まえ、議員自らの報酬引き上げは県民の理解を得られないと指摘。

県民平均の約4倍に上る報酬水準に疑問を呈し、「まずは信頼回復と県民生活支援が先」と訴えた。

報酬引き上げに必要な2,000万円の財源は、子育てや教育に振り向けるべきと主張し、同僚議員に再考を強く訴えた。

鳥取県議会タスクフォース活動要約(令和5・6年度)

鳥取県議会タスクフォースは、若者の政治参加促進を目的に令和5年12月に発足し、特に「主権者教育」の強化を柱として活動を展開しました。

令和6年からは県教育委員会や高校との連携を進め、「高校出前講座(G1プロジェクト)」として、議員と生徒が直接対話する主権者教育モデルを構築。倉吉総合産業高校では2年生約160名と意見交換を実施し、議員を身近に感じてもらう取り組みとして一定の成果を上げました。

活動の集大成として「主権者教育推進に関する提言書」を令和7年2月に議長へ提出し、タスクフォースは令和7年3月末をもって役割を終えました。

主権者
教育の
推進!



総務教育常任委員会

総務教育常任委員会とは
令和の改新戦略本部や
総務部、教育委員会などと
予算や個別の政策について
審議しています。



被災地の能登復興ネットワーク様へ(84万円)、
のと復興ラボ様へ(43万円)の2団体に寄付を
させていただきました。



地域での活動



『次世代への徹底投資』と
『しがらみのない政治』を実行します🔥



所属議員連盟

22の議連に加入して、課題解決に向け取り組んでいます。
拉致議連、看護議連、警察を励ます会、生活衛生議連、自転車議連、地
域交通議連、私学議連、スポーツ議連、林活議連、サウナ議連、山陰近
畿道三府県、畜産議連、水産議連、自治体病院議連、ジオパーク三府
県、空の駅議員連盟、ラーメン議連、鳥取港議連、台湾議連、高校応
援議連、ジェンダー議連、インド議連

県外視察 (委員会および議員連盟)



県内視察



チャンネル登録
いいね👍高評価
お願いします♪



公式 HP



玉木ゆういち

検索

維新のサポーター大募集!!

日本維新の会は党の綱領にご賛同いただき、
入党してくださる個人の方の募集をします。

募集要項

(1)我が党の綱領、主義、政策に賛同される方。
(2)満18歳以上で、日本国籍を有する方。(3)他の政党の党籍を持たない方。

党費:年額2,000円



後援会入会
はこちら

玉木ゆういち連絡先 TEL:0857-35-0417

FAX:0857-77-3951 携帯:090-8990-7016

〒680-0803 鳥取市田園町4丁目375番地

MAIL:y.tamaki@yuichitamaki.jp